

拜啓

秋たけなわのこのごろOB各位におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、すでにお聞き及びの方もいらっしゃるかもしれませんが、我々現役生が昨年の山小舎の床改修に引き続きまして、屋根の修理をすることと致しました。といひますのも、床同様以前からいわれておりましたことですが、屋根のトタンのいたみが相当ひどく（トタン内側の板は健在）、早急に手を打たなければなりません。それと、これはあるOBの方にご指摘頂き判明したことですが、小屋脇のかまどの柱の根元部分が朽ちてきており、こちらも急いで処置しないことには、崩壊の可能性が高いと思われます。以上のことを考慮いたしますと、昨年床を改修しましたついでといひてはどうかと思ひますが、先輩方にご協力頂いた残りもございませし、昨年来資材・器材・技術面で多大な協力をしていただいております方ともつながりがございませ我々に屋根の改修工事も実施させて頂きたく思ひます。

ところで、以前お送りした床工事の決算報告をお読みになられた方はご存じと思ひますが、当初予定では屋根の工事に約八〇万円以上かかり、従つてトータルで約一〇〇万円程の予算を見込んでおりました。約一〇〇万円といひますと、昨年先輩方にご協力頂いた丁度残りの額でございませ。ここで、いきさつを簡単にではありませが、説明させて頂きませと、我々は当初屋根のトタンの代替資材といひましてシングル材を使おうと考へておりました、確かにシングル材ですと上から次々に張つていくことで耐久性を増していくことができますので事後継続的に作業していけるのでしたら比較的安く上がります。しかし今回協力して下さる屋根職人の方によりますと、シングル材だと耐久年月は約五年でその都度資金を集め、人（屋根の作業なので職人に入って頂くことになる）を集めなければならぬ。そうして、継続的にはりたしていくことでようやく耐久性が増すといひことです。それならばといひことで勧めて頂いたのがカラーベスト（クボタ製）といひ材料です。これなら、上からペンキを塗つていくことも可能でして耐久性も約二〇年と優れております。カラーベストはシングル材に比較いたしまして確かに割高になりますが、後輩諸君の手間やなにより経済効率を考へ合わせますと有利ではないかと思ひそれを使用することといたしました。しかしながら、そういたしますと率直にいひまして費用が不足します。具体的には屋根の修理で一二〇万円丁度かかりますのでそれだけで約二〇万円の不足、かまどの足の修理費、藤村氏（一連の改修工事の過程で多大なご協力を頂いた方。なお、ご本

人は対価を要求なさっているわけではないのです。)へのお礼、発電機のレンタル料、ガソリン代、食費等諸雑費合わせてさらに二〇万円不足、計四〇万円不足いたします。

以上のことを踏まえて先輩方に再度のご協力をお願い致したく思います。昨年に引き続き大変恐縮しておりますし、昨年の残金でどうにかするのが筋と心得てはいますが、約三〇年前の大先輩が建設され、代々の先輩方が守ってこられた山小舎を当時のまま、当時の面影を残しつつ、より良いものへと改修し後の世代へと残していきたい、それが我々工事に携わる者の願いであります。我々の無計画はよくよく承知いたしておるつもりでありませぬ。しかし、これが山小舎に関する最後の大規模な工事になります。これが終われば床・屋根とも長期に渡って使い続けられる、山小舎そのものが蘇るのであります。その点をどうかお考えください。そして、いま一度我々にお力をお貸し下さいますようごころよりお願い申し上げます。金額のほうは、恐れ入りますが一人二〇〇〇〜三〇〇〇円をお願いいたします。

なお、以下に作業の概要、日程、連絡先等記しておきますので、ご質問等ございましたらそちらまでお願いいたします。

一〇月一四日

敬具

立命館大学ワンダーフォーゲル同好会
四回生一同

△作業の概要▽

- ・山小舎屋根部分・・・一二〇万円(職人さんの日当を含む)
- トタンをはがしカラーベスト(色は赤)をはります。また、屋根(玄関側)中央部分に透明のカラーベストをはめ込み窓とします(これで二階がかなり明るくなります)。さらに、屋根裏側に防腐加工した板をはり(梁をかくす)、気密性を高めます。
- 屋根の作業は素人には無理ですので昨年協力して頂いた藤村氏のお知り合いの大工、屋根職人の方四名に入ってもらいます。
- ・かまど部分・・・セメント代及び砂代(セメント7.5Kg¥680砂15Kg¥420・・・目安)
- セメントで足の部分の根元を固めます。これは学生でも出来るそうです。

△日程▽

- 十一月二日 材料・器材等を林道終点まで車で運びます。山小舎泊。
- 三日 材料・器材等を山小舎まで運び込みます。一〜四回生山小舎泊。
- 四日 同様に運び込み。四回生のみ山小舎泊。

十一月五日 職人さんに入って頂き改修作業を実施します。終了下山。

六日 予備日。

※二日～四日までは雨天決行。五日雨天の場合後日実施致します。

△連絡先その他▽

期日：恐れ入りますが作業実施まで日がございませので、十月末までにお願ひします。

口座番号：立命ワンゲル山小舎修理基金

平成八年十月現在の残高：一、〇三〇、九四〇円（但し六〇万円前金で支払済）

連絡先：

山小舎改修工事総責任者 浅間 耕一

☎

会計責任者、渉外担当 澤村 敬太

☎

※なお、この通知は住所が判明している方はそちらに、不明確な方は平成元年に制作された名簿に基づき出来るかぎり帰省先にお送りさせていただきます。もし、帰省先と宛名ご本人の居住地が異なる場合、このお手紙を受け取られたかたは、お手数でも御本人様に転送ないしご連絡頂きますようよろしくお願い申し上げます。

年の瀬も押し寄せまわってまいりましたが、先輩方にはお変わりもなく、お元気にお過ごしのことと存じます。

山小舎改修の件につきましては、先輩方のご協力により無事完成をみる事ができました。遅くなりましたが、ここに感謝の意を表すとともに、工事過程・完成後の山小舎について若干の説明を加え、また、決算の報告をさせて頂きたく思います。

この度の山小舎改修には一四七名、約七〇万円、昨年を含めるとのべ三四六名、合計にして約二二〇万円のご協力を頂きました。おかげさまで、長年の懸案であった山小舎の床と屋根の両方を二年という短期間で改修することができ、先輩方には、我々一同たいへん感謝しております。ありがとうございます。

さて、改修工事に関するのですが、当初予定では今年の十一月二〜五、六日で完成するはずでしたが、発電機のトラブルや職人の都合、また仕事が増えた（トタンの下の板が使えず新たにベニヤを歩荷した）ことなどにより、十一月の毎週土、日に入舎して、結局終了したのが十一月二日になりました。その間に入舎なさったOBの方には疑問を持たれた方もいらっしやったかもしれませんが、その点はお許しください。しかしながら、二二日には屋根は勿論のこと、かまどの柱部分の補強工事も含めすべて完成致しました。従って今後はOB、現役とも新しい屋根の山小舎を利用していただくこととなります。

今回の工事には、予定通りカラーベストを使用致しましたので、その耐久性から考えて約三〇年以上はそのまま使えるものと思っております。また、以前お送り致しました手紙に天窓をつける旨記しましたが、それも屋根の表面の左寄りにはめ込むことができませんでした。また、二階屋根の内側にベニヤをはりましたので天窓と合わせて、二階部分が明るく感じられるようになりました。それらに、かまどの工事を含めると今回の工事は、昨年の床同様成功をみたと考えております。ただ、作業前にもあるOBの方にご指摘頂いたので、工事の結果により山小舎のイメージが大きく変わってしまう可能性があるということなのです。我々もその点はなるべく考慮したつもりであり、先輩方が在学しておられて以来の面影、思い出を損なわぬよう務めました。例えば、色は赤に近づけるためワインレッドを使用し、後に塗り替えられるような材質を用いました。また、使える部分はなるべく残し、そのまま使用するように致しました。しかし、限界もありまして、耐久性や加工の難易等を考え合わせまして、トタンよりもカラーベストが良いと判断致しました。それ

とともに、現役生の希望等を踏まえ、結果として今回の屋根が出来上がったわけでありませす。したがって、先輩方のなかには、完成後の山小舎に当時の面影を見出せないとおっしゃる方もおられるかも知れません。我々としては最善を尽くしたつもりであります。その点に関しては何卒ご容赦願いたく存じます。

完成後の山小舎について、外観が若干変わった他は特記することはございませんが、正面からみて右側のコンクリート壁にありますかつての煙突の穴をふさげば、蜂や動物類が入ってくるのがなくなりますのでそれをふさぐ必要はないということ。それと、小舎の前にある木材は今後使用の可能性があるのでそのままにしておいて下さい。また、天窓はかなりの強度をもっておりますが、木に積もった雪が枝ごと大量に落ちてきたなら、われることがなきにしもあらずですので注意して下さい。

それでは、おくれればせながらこれをもちまして山小舎屋根改修の結果報告とさせていただきますとともに、二年にわたる山小舎改修プロジェクトを解散致します。ご協力ありがとうございました。ございました。ご多忙とは存じますが完成した山小舎を見に来て頂ければ現役としてもこれ以上の喜びはございません。来年三月に我々は卒業する予定であります。現役生や先輩方とともに山小舎の灯をともし続けていきたいと思っております。

敬具

十二月二六日

立命館大学ワンダーフォーゲル同好会四回生一同

(浅間耕一、安達満、伊藤大輔、藤本正雄

藤原亮、澤村敬太)

【山小舎使用について】

今回の工事の過程で多くの先輩方から質問が寄せられたことに、現在の山小舎の利用方法を教えて欲しいというものがございましたので、ここに回答させて頂きます。よく利用しておられる方も目を通して頂きたく思います。

小舎へのアプローチは大きく分けて二通りございます。①貴船から芹生を経て三ノ谷の出合いまで来る方法。これは三ノ谷出合いまで車で来られますのでそこから歩いてください。道路状態はそれほどよくありません。②花背高原前から徒歩で寺山峠を越えて二ノ谷出合いまで来る方法。これは、出町柳から京都バス「広河原」行きに乗り花背高原前で下車します。①、②とも二ノ谷出合いで合流し、二ノ谷沿いを登って頂ければ到着します。念のため、エアリアマップ「京都北山1」（昭文社）を参考にして下さい。

つぎに、小舎への入り方ですが、現在は特に鍵を管理している者はおりません。番号式の鍵が小舎の扉にかかっております。番号ですが「2928」です。この番号は、小舎の表面、及び裏面のトタン製の雨戸をはずされたその硝子窓に薄く記してあります。帰り際に戸締りしていただければそれで大丈夫です。

また、現在小舎及び周辺登山道は現役が整備し借地料を含め管理致しておりますが、小舎を使用するのに、誰かの許可や届けが必要とかいうことはございません。OB、現役それぞれ、家族と、会社の同僚の方と、友人と、また一人だと自由に使っておられます。使用後の後片付けさえして頂ければ、あとは御自由にお願致します。それと、小舎には冬の炬燵に使う練炭や非常用の食料（インスタントラーメンなど）等の備蓄がございますので、もしそれらをご使用になられましたなら、練炭はともかく食料のほうは次回来られた時に保存のきくものを足しておいて下さい。入舎の折りには「山小舎ノート」を書いて頂ければ幸いです。

ここで、残念な話ではありますが、あるOBの方々曰く、また現役生の何人かも言っておりますが、山小舎を使用した後に一切片付けをせずに帰っていく人がいるというのであります。炬燵は出したまま、ラーメンの食べ残しはそのまま、こぼしたのもそのまま、などです。これまでそんな話は聞かなかったので、ここ半年の間に集中的に起こっていることだそうです。また、豊中市役所寄贈とありますランタンも夏以降に壊れてしまったままなのです。これらは、非常に残念ではありますが事実です。それに、山小舎の備品関係は三回生以下の現役生が少ない会費の中から出しておりますのでその補充には限界があります。ワングル関係者以外にも多くの人達が入っておりますので、ワングルの人達ではないと思えますし、当然悪意はないと思うのですが、もしそのような人を見かけたら注意して頂ければと思います。我々も小舎及びその周辺を美しく保てるよう努力していこうと考えておりますので、お気づきの点がございましたら、ご指摘くださいますようお願い申し上げます。

以上、山小舎の利用法を記しましたが、今回の改修責任者以外に現役生のなかで、山小舎プロックリーダーの住所等記しておきますので普段の山小舎使用はそちらにお問い合わせ下さい。なお、一九九七年には新しいリーダーが選出されます。

・荒川 徳久（理四）

山小舎屋根改修決算報告

収 入		支 出	
摘 要	金 額 (円)	摘 要	金 額 (円)
前年度繰越金	1,047,950	工事費	1,200,000
今年度OB寄附金	659,940	通信費	69,722
		食費	56,926
		燃料費	9,481
		レンタカー代	6,283
		印刷費	5,890
		写真関係費	3,937
		セメント、砂代	2,266
		諸経費	7,419
	1,707,890		1,361,924

差引残高 345,966.

山小舎改修工事総責任者：浅間 耕一

同会計責任者：澤村 敬太



<解説>

収入：

- ・前年度繰越金；昨年度の床修理の折りにOB，OGの方に寄付して頂いた残金です。
- ・今年度OB寄附金；今年度皆様方に寄付して頂いた金額です。先輩方はじめそのお知り合いの方々に御協力頂きました。また、数字には表れませんが、資材の運び込みを手伝って頂いたり、励ましのお手紙をたくさん頂いたりと様々な面でもご協力いただきました。ありがとうございました。

支出：

- ・工事費；山小舎の屋根部分の改修にかかるすべての費用です。ここに、カラーベスト約40組、ベニヤ板（後に追加したものも含む）、職人さんの日当、天窓用強化硝子等の費用が含まれます。ちなみに、この工事費は藤村氏と職人さん（大工及び屋根職人）が普段一緒に仕事をしている関係で設定された価格であり、それぞれの費用がいくら、というのではなく、一括して120万円としてその範囲で工事をして頂いたものであります。
- ・通信費；OBの方への依頼文、及び礼状等連絡、通信の費用であり、切手代、封筒代が含まれます。
- ・食費；当初11月上旬で終了する予定が、事情により延長し、そのぶん食費がかかりました。11月2～5日、9、10、16、17日の食費です。
- ・燃料費；藤村氏にお借りした車のガソリン代、発電機のガソリン代・オイル代、ランタン等のホワイトガソリン代がここに含まれます。
- ・レンタカー代；11月22日に屋根の仕上げに立ち会うため車を借りました。
- ・印刷費；先輩方への連絡用の手紙のコピー代がほとんどです。
- ・写真関係費；今回の改修工事の過程を記録するための写真です。フィルム2本及び現像代です。なお、写真は山小舎と立命館大学学生会館地下倉庫に記録として保存する予定です。
- ・セメント、砂代；かまどの足元を補強するために使用しました。
- ・諸経費；カセットコンロとボンベの購入費やランタン用のマントル代、暖房用の練炭4つ、アルカリ電池、ペン等が主なものです。なお、練炭は小舎に置いてあります。

以上が今回の改修工事にかかる決算のすべてです。これは、1996年12月26日現在のものです。われわれとしましては、できる限り年内にということで急ぎ決算し、礼状、報告を添えて送付させて頂こうと考えました。したがって、この後残高に若干の変動があると思いますがその点ご了承下さい（例：この報告の印刷代、藤村氏へのお礼5万円相当等）。なお、今回の報告をもちまして「立命ワッゲル山小舎修理基金」の口座は廃止する予定でありまして、残金につきましては、普通預金の口座を新たに郵便局に設け、その上で①現役生に山小舎用の資金として借地料やメンテナンスに使用してもらう、②我々の世代で管理し山小舎関係に利用する、等の考えがあります。おそらく、①になると思います

が、その点も含めてこの決算報告に対しご意見等ございましたら下記どちらでも結構ですのでご連絡下さい。

山小舎改修工事総責任者：浅間 耕一



山小舎改修工事会計責任者：澤村 敬太



※藤村氏；ご存じの方もいらっしゃると思いますが、去年の床改修以来お世話になっている方です。今回は職人さんとの仲介をはじめ、機材や車を提供して頂くなど、様々にご協力願いました。昨年以来、技術や道具類の提供等多くの面で我々を助けて下さり、この2度の工事ではもはやなくてはならない存在となりました。

※改修後のトタンについて；現在トタンは小舎脇に放置してあります。その後始末も当然我々の仕事であります。が、時期が時期ですので必ず雪解け3月に再度入舎しかたづけるつもりですので、ご承知おきください。

以 上